

事業所名

児童発達支援センターでいじい

支援プログラム

作成日

2026年

3月

31日

法人（事業所）理念	障がいの有無に関わらず、生まれ育った場所で穏やかに、自分らしく生きて行けるよう、出来ることを一つずつ増やしていく						
支援方針	様々な経験を通して興味関心を増やす。また感受性を育み、個の表出を一つ一つ受けとめていくことで自己肯定感が高まるように支援を行う。						
営業時間	8時	30分から	16時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康観察、感染症対策、トイレトレーニング、食事の練習（食べれるのも・偏食が多いなど、様々なケースに対応）道具の使い方 避難訓練					
	運動・感覚	サーキットトレーニング、運動教室（器械体操・球技など）、歩行訓練、体幹トレーニング、屋外遊び 感覚統合運動（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）センターの場合は、後半3項目に特化して行っています。主にクッキング等は季節に応じてメニューを考えるので、季節感の勉強にもなります。ブランコ・触感遊び					
	認知・行動	学習支援（絵カード・写真・カラーの教材を使用するなど）、反復学習（何度も繰り返し苦手意識を軽減させる）。アプリのタイマーを使い短時間集中型 タスク分解（多くのことをするより、スモールステップで行う）行動の構造化（予測可能性を高めるため、行動のルーティン化。タイマーでの指導）苦手な部分の解決方法を一緒に考え支援方法を作っていきます。					
	言語 コミュニケーション	語彙の拡大（絵カードなどで物の名前や動作を教える・カードを分類する）日常的な言葉かけを多くし、支援者の言葉の速さや声量などを意識して行う。また、質問も多く 与え、考えて答える時間を取ります。自発的・自立を目指し、ゆっくり進めていきます。 ターンテイキングの練習（順番に話すこと、待つ練習。ストップなどの静止の言葉の理解など）身振り、指差し。ロールプレイ（ごっこ遊びなど）					
	人間関係 社会性	基本的なコミュニケーション（挨拶やタッチ）距離感の練習（場面の中で指導し、距離感を伝えていく）絵カード（感情表現などのカードを使用する） 集団ルール理解（待つ・ルールを守るなど）指示理解（言葉だけの指示で動けるかなど、難しい場合はジェスチャー）やめてを言う練習、買い物支援。主に個別課題から スタートし、スキルを上げることで人間関係や社会性の基礎を作っていきます。					
家族支援	親子参加のリトミック・運動教室を実施・きょうだい参加型の季節のイベント開催	移行支援	就学指導に始まり、18歳までのライフプランの進路選択の情報提供。				
地域支援・地域連携	地域の子育てなどと連携し講演会の実施など また、今後は地域資源を見つけ、協力・依頼していく予定	職員の質の向上	近隣の児童発達支援センターへ研修・事業所内での支援会議（支援のプログラム・病状、障害への理解など）				
主な行事等	季節に応じて実施（花見・プール・夏祭り・散歩・外出・初詣・卒センター式など）						